

# うっしっしいー情報2015

4月市



豊岡農業改良普及センター

4月8日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が71万4千円、雌が63万6千円でした。

普及センター調べ（税込価格）

（本人落としも含むため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
宍粟・佐用	9	0.947	686,280	8	0.829	638,955	17	664,009
篠山	7	0.957	732,857	3	0.803	614,160	10	697,248
丹波	17	0.966	738,593	20	0.810	600,318	37	663,850
朝来	6	1.037	765,180	2	0.895	671,220	8	741,690
播磨	18	0.932	706,020	9	0.814	622,440	27	678,160
美方郡	47	0.947	705,723	34	0.861	656,545	81	685,080
豊岡	16	0.954	701,123	10	0.868	660,420	26	685,468
養父	8	1.013	756,675	4	0.937	650,160	12	721,170
摂津・神戸	3	0.993	762,120	2	0.831	617,220	5	704,160
県北C	9	0.920	687,000	4	0.864	604,800	13	661,708
市場全体	141	0.955	714,248	97	0.845	635,730	238	682,247

# 4月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	丸宮土井	16	0.978	798,255	11	0.795	649,767	27	737,760
2	芳悠土井	37	0.991	734,166	18	0.876	666,600	55	712,054
3	千代藤土井	10	0.912	713,556	2	0.891	696,060	12	710,640
	総計	141	0.955	714,248	97	0.845	635,730	238	682,247
4	丸富士井	24	0.922	689,580	16	0.857	642,128	40	670,599
5	照忠土井	7	0.968	694,131	4	0.837	624,240	11	668,716
6	芳山土井	27	0.945	697,120	28	0.852	628,483	55	662,177
7	福芳土井	4	0.986	677,700	6	0.830	612,000	10	638,280

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

## ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	丸宮土井	B	B	A+	A++	A+ → A++	A++
2	芳悠土井	A+	A → B	A+ → A	A	A	A+++ → A++
3	千代藤土井	A	A++ → A+++	D → C	A → A++	A+ → A++	A+++ → A++
4	丸富士井	B	A++	D	C	A	A++
5	照忠土井	B	A++ → A+++	A → A+	A+	A+++	A+
6	芳山土井	A+	A+++ → A++	A++	C	A++	A++
7	福芳土井	A++	B	A++	C	C	A

北部農業技術センター提供 (育種価評価は平成27年01月現在)

# 子牛出荷日齢が早期化している!?

～ その1 出荷日齢の変化と出荷体重について～

## 1. はじめに

最近の但馬家畜市場では、去勢子牛はもちろん雌子牛でも日齢体重が1.0kg/日を超えることが珍しくなくなりました。また、現在使用している但馬牛発育曲線と実際の子牛発育値との間に差が生じ、発育曲線が15年ぶりに見直される予定です。そこで、今月から2回にわたり、子牛発育が本当に良くなり、その結果、出荷日齢や取引価格に何らかの変化があるのか、5年前と現在の市況を比較してみたいと思います。

## 2. 5年前と比較して出荷日齢が早期化?

出荷日齢別に出荷頭数を比較してみました。データ数は直近3カ年（H24～26）の数値（去勢5,090頭分、雌4,082頭分）と5～8年前（H19～21）の3年間の数値（去勢4,976頭分、雌3,892頭分）です。

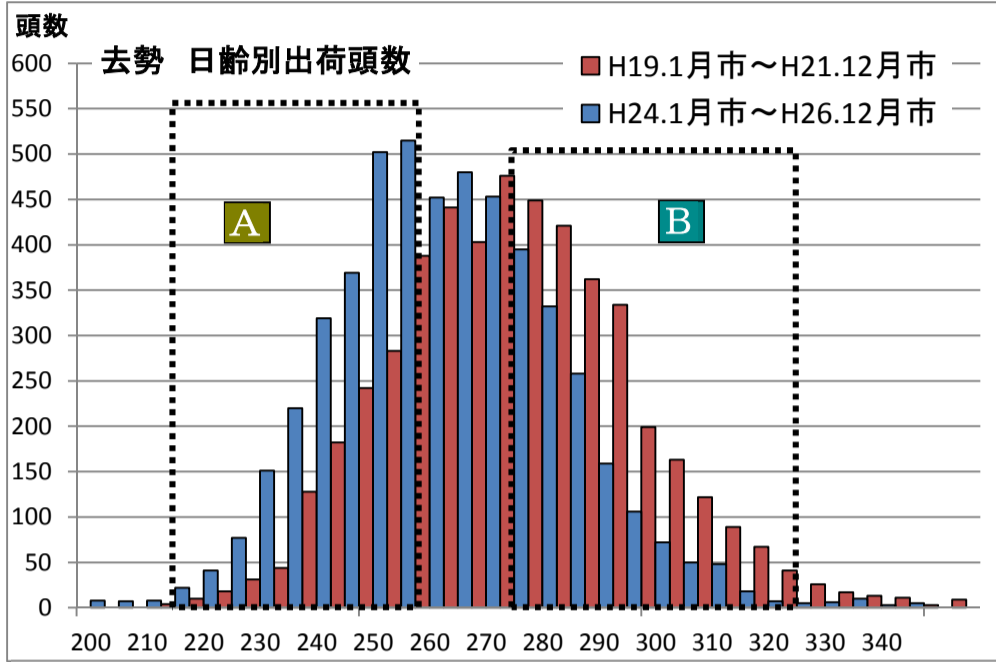


図 1-1 去勢子牛の出荷日齢比較

### ○去勢子牛の出荷日齢の変化

直近3カ年の去勢子牛では、**A** (220～255 日齢) の出荷子牛が急増しています。一方、**B** (275 日齢以上) の出荷頭数が大幅に減少しています (図 1-1)。

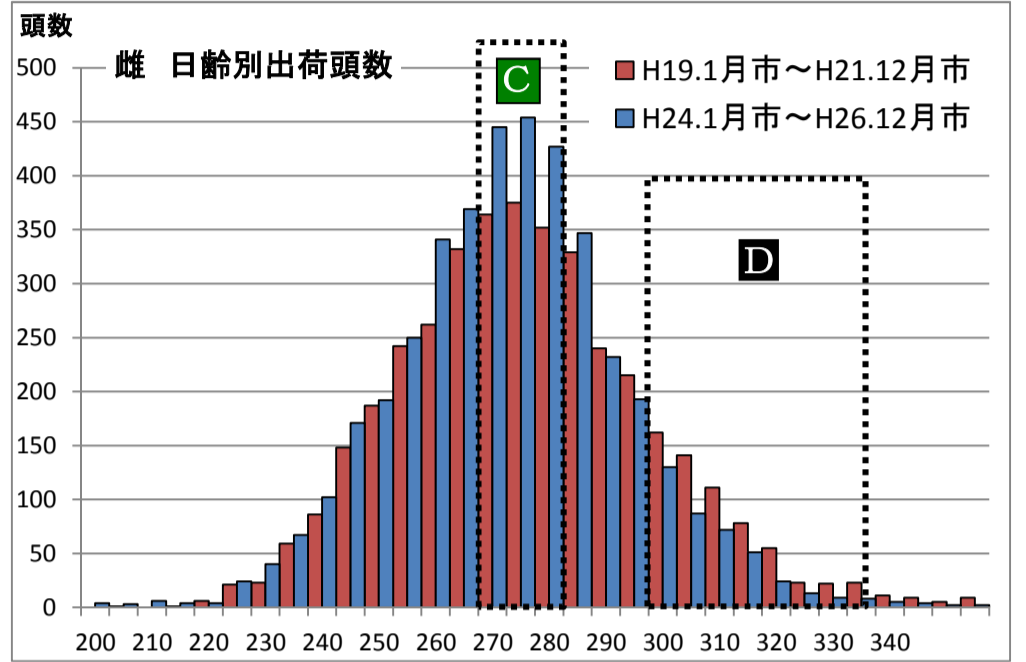


図 1-2 雌子牛の出荷日齢比較

### ○雌子牛の出荷日齢の変化

雌子牛では、270日齢までの出荷頭数に変化は見られませんが、**C** (270～280 日齢) に出荷頭数が集中し、**D** (300 日齢以上) の出荷頭数が減少しています (図 1-2)。

## 3. 出荷体重は変わっていない?

前項では、出荷日齢別に出荷頭数を見てみましたが、同じデータから出荷体重を比較してみました。

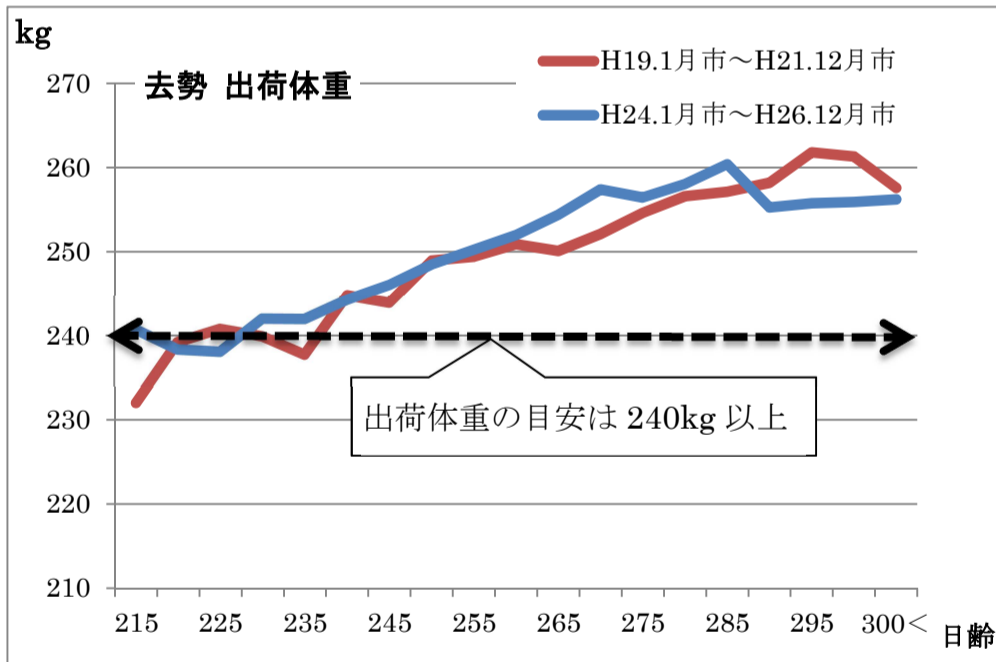


図 2-1 去勢子牛 日齢別出荷体重

### ○去勢子牛の出荷体重について

直近3カ年の日齢別出荷体重は、過去3カ年と比較したところ、全期間を通じて、ほぼ同じか、やや高めでした。出荷日齢の若い頭数が急増していますが (図 1-1)、単純な早出しではなく、出荷体重が **240kg** を超えることを目安とされています (図 2-1)。

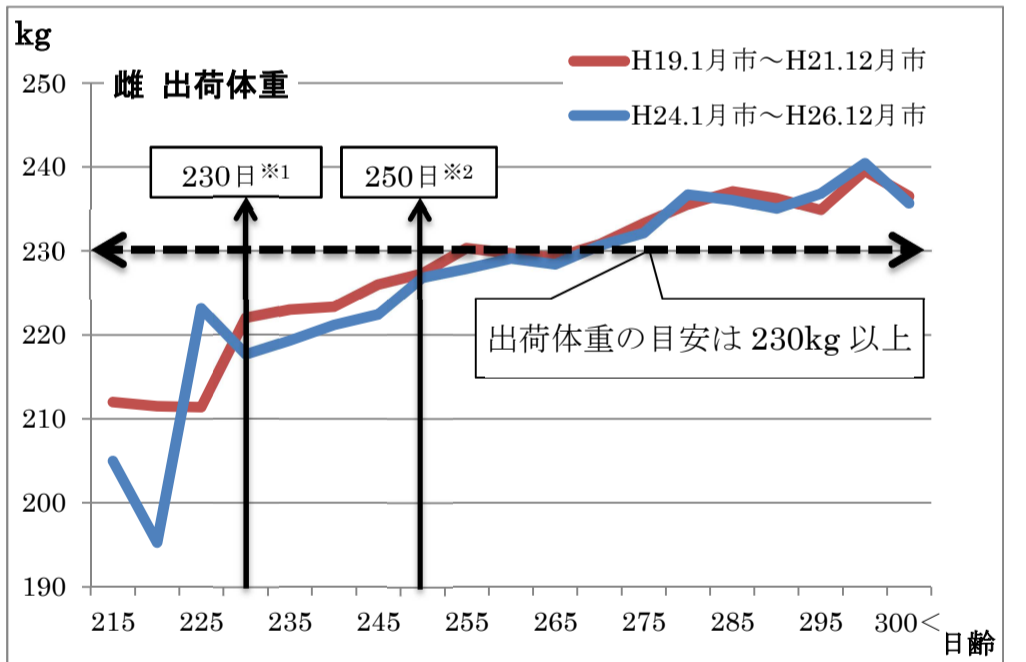


図 2-2 雌子牛 日齢別出荷体重

### ○雌子牛の出荷体重について

出荷頭数が少ないため230日齢<sup>※1</sup>以下の出荷体重にバラツキが見られますが、それ以降の出荷日齢では出荷体重は5年前とほぼ同じでした。出荷頭数の約8割を占める (図 1-2) 250日齢<sup>※2</sup>以降では、出荷体重が **230kg** を超えることを目安とされています (図 2-2)。

## 4. まとめ

去勢子牛では早期の出荷が急増し、去勢子牛・雌子牛ともに300日齢を超える出荷が減少するなど発育のバラツキが少なくなっています。その一方で、出荷の目安となる体重は変わっていません。この要因として種雄牛の育種改良や、子牛の飼養管理方法の改善により、全体的に市場に出荷される子牛の発育量が増加していることが考えられます。

### <ポイント>

- 去勢子牛では、220～255日齢で出荷体重の目安となる240kgに達する子牛が急増している。
- 雌子牛では、270～280日齢で出荷体重の目安となる230kgに達する子牛が集中し、300日齢以上のお荷子牛が減少している。
- 去勢子牛では、240kg以上、雌子牛では230kg以上が出荷の目安とされ、この目安は5年前とほとんど変わっていない。

今回は、取引価格から適期出荷について考えてみたいと思います。